

JENESYS2015 (派遣プログラム) アクションプラン

作成日: 2015/ 03 / 12

派遣国(グループ名) : シアトル (豊橋技術科学大学)

No.	活動内容 (WHY/ WHEN/ WHO/ TO WHOM/ WHAT/ HOW を記載)
1	<p>【アクションプランタイトル】</p> <p>人に寄り添うテクノロジー</p> <p>【活動内容】</p> <p>このアクションプランタイトルの理由は、便利さ、快適さを重視している日本人の考え方を米国に伝えるためである。米国では、トイレの高さが高く、トイレは用を足すためだけに使われていると思われる。一方、日本では、トイレがきれいで快適に使えるように工夫が施されている。また、本プロジェクトでウォシュレットを紹介した際、日本人の考え方(便利さや快適さを意識すること)が知られていないと感じられた。そこで、このような日本の技術や考え方を米国に広めるべきだと考えた。アクションプランは、海外の学生に日本の技術を伝えて、今後アメリカにも導入してもらう方法が適していると考えた。日本にいる留学生にも直接、積極的に紹介し、帰国したときに彼らにその技術を広めてもらう。</p>
2	<p>【アクションプランタイトル】</p> <p>日本を置いていく</p> <p>【活動内容】</p> <p>本プロジェクトなどの文化交流が終わった後、現地の方が再び日本文化へ興味を持つ時があると思われる。しかし、本プロジェクトに関わるヒントや手本がないと再び日本文化に触れることができず、その国に日本文化が定着しないと考えた。そこで、その国で再現性が得られるような発信方法が必要であると考えた。まず、実際に日本人と現地人が一緒に日本文化を体験する。そして、再度日本文化に興味を持ってもらうために、その時に教えたモノやノウハウを現地に残していく。例えば、けん玉や浴衣など、消えないものを現地に残していく。そうすることで、日本文化をただ体験するだけでなく、忘れないように促すことができる。また、日本から動画を随時発信していくことで現地の方が現地で文化を体験できるようにする。この方法で、日本文化を定着できると考えた。</p>
3	<p>【アクションプランタイトル】</p> <p>気づきを伝える</p> <p>【活動内容】</p> <p>本プロジェクトを通して、日本人が主体性を持っていないように感じた。その理由として、アメリカ人はお店で知らない人同士でもコミュニケーションを取ることや、質問を積極的にする姿が見受けられたためである。それに対し、日本人は知らない人と会話することがなく、質問をしない。加えて、日本人は外国人に対する理解力が乏しいと思われる。このような事から、日本の魅力を発信しようとしても、相手側に伝わらないと考えた。日本の魅力を発信するためには、まず日本人が積極的に行動し、海外をもっと知る必要がある。考えたアクションプランは、海外から帰国後、友達や家族に対し「気づき」を伝える(アメリカが多民族国家など)、イメージと事実の違いに気づいてもらう。よって、考えを改めて自分を見つめ直すことができ、外国に対する偏見や先入観をなくすることができる。これにより、外国の社会事情や文化を踏まえた上で、日本人が日本の魅力を発信できると考える。そうすることで、その国にあった日本文化を根付かせることができ、確実に日本を知ってもらえると考えた。</p>
4	<p>【アクションプランタイトル】</p> <p>異文化交流</p> <p>【活動内容】</p> <p>アメリカに滞在したことで、文化や考え方が違うことがわかった。主に、女性の社会進出、貿易、アカデミックフリーダム、小学校での体験型学習、車社会が理由として挙げられる。友達や家族に今回感じたことを共有するだけでなく、SNSなどで自分が感じた日本とアメリカの違いについて、考えや感想を発信していく。</p>
5	<p>【アクションプランタイトル】</p> <p>上記は、ワークショップ時に各班から挙げたアクションプラン。下記は、豊橋技科大が行う具体的なアクションプラン。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトに参加したメンバーの所属する研究室で、KAKEHASHIプロジェクトを紹介する。 ・技術をキーワードとした日本と米国との違い(気づき)をまとめ、ネットで紹介する。その後、各大学での気づきをキーワードごとにまとめ、それをウェブサイトで公開。 ・成果物(大学のプレゼンテーション及びムービー、感想、気づき、スケジュールの紹介、アクションプラン)を今回の訪問先に共有し、さらに各大学の関係者にも共有する。そして、次回のカケハシプロジェクト関係者へも共有できるようにする。 ・本学が作成したプレゼンテーションスライドのパワーポイント、アクションプラン及び写真を用いて、カケハシプロジェクトを紹介する。 ・米国滞在中に訪問した小学校でのiPadを用いた体験型授業を実践し、保護者を通してカケハシプロジェクトを広める。

※帰国直後アンケートとともに1週間以内に必ずご提出下さい。

※手書きではなく必ずパソコンにて作成して下さい。

※枠通りに5個案を挙げる必要はありませんが、セルを調整してA41枚でおさまるように作業して下さい。